

S 50.9.1 (A) 971

朝日

# 軍縮管理に査察団を

## サハロフ氏がアピール

### 特別ルート通じて公表

パグウォッシュ会議

ソ連の核実験が、いよいよ、一時的に停止され、八月二十八日、ソ連政府は、核実験の再開を断念した。ソ連政府は、八月二十八日、ソ連政府は、核実験の再開を断念した。

第二十五回パグウォッシュ会議に、核軍縮へ実質的に踏み出した「特別アピール」を寄せてきたことが、一日明らかになった。このアピールは、ソ連国内から特別な方法で持ち出された。

(2面に関係記事)

サハロフ氏はその中で、まず、政治面での緊張緩和が進んでいるといわれながら、軍備競争はますます激まっている事実を批判し、軍拡から完全軍縮へ踏み出す段階的措置として、米ソの所有する核弾頭を同数にするのをはじめ、東西の軍事ブロック、対立状態にある国の兵力を「同じ水準」まで



サハロフ氏

引き下げるべきだ、と主張、軍縮を管理するための強い権限を持つ国際査察機構を設けることを提案した。

サハロフ・アピールは、十九日の「完全核軍縮への第一歩」をテーマとする非公開討論の中で、チエコスロバキアの原子物理学者で、スウェーデン科学アカデミー客員教授のランチシエク・ヤノフ氏が紹介した。同氏はチェコスロバキアの科学者だが、昨年六月、同国の市民権をばく奪された。ソ連からは科学アカデミー幹部会付属の「軍縮の学術的諸問題に関する委員会」のワシリエ・エメリヤフ氏三人が参加していたが、このサハロフ・アピールに対して、その場で反論や批判はしなかった。アピールは、タイプ用紙で三枚の長さ。

サハロフ氏は「いま人類にとって最大の課題は軍縮問題である」と規定する。「緊張緩和政策の最も重要な目的は、核兵器の完全禁止と完全軍縮であるべきだ」と述べ、国際政治面では「緊張緩和」が進んでいるのに、核軍備競争が米ソを中心にもっと激しくなっている現実を暗に批判している。

この「緊張緩和型軍縮」から軍縮へ転換する手かかりとして、①戦術兵器制限交渉の中で、米ソの核弾頭の総数を同じにする②欧州の軍縮交渉の過程で、北大西洋条約機構(NATO)とワルシャワ条約機構の戦車と師団の数を同じくする③中ソ国境に集中している両国の軍兵力を同等にする――などを、軍事力の「同水準化」を提案している。

続けて、軍縮を本道に導くためには、軍縮を国際的に管理する体制をつくるべきだとし、一つの案として、査察対象になった国のすべての地域に自由に立ち入れる「国際査察団」といった構想を打ち出している。

さらに、軍縮を進める有利な環境をつくるためには、国際的な信頼を深める努力が欠かせない、と強調。その第一歩は、世界人権宣言にうたわれている人や情報の自由な交流、居住国(地)選択の自由、書籍の自由な販売などの完全実施であり、「社会主義諸国が、その閉鎖性を克服すべきだ」と、社会主義陣営がより開かれた世界へ進むことを強く望んでいる。

c092-17-022